書いてみよう

年　組　名前

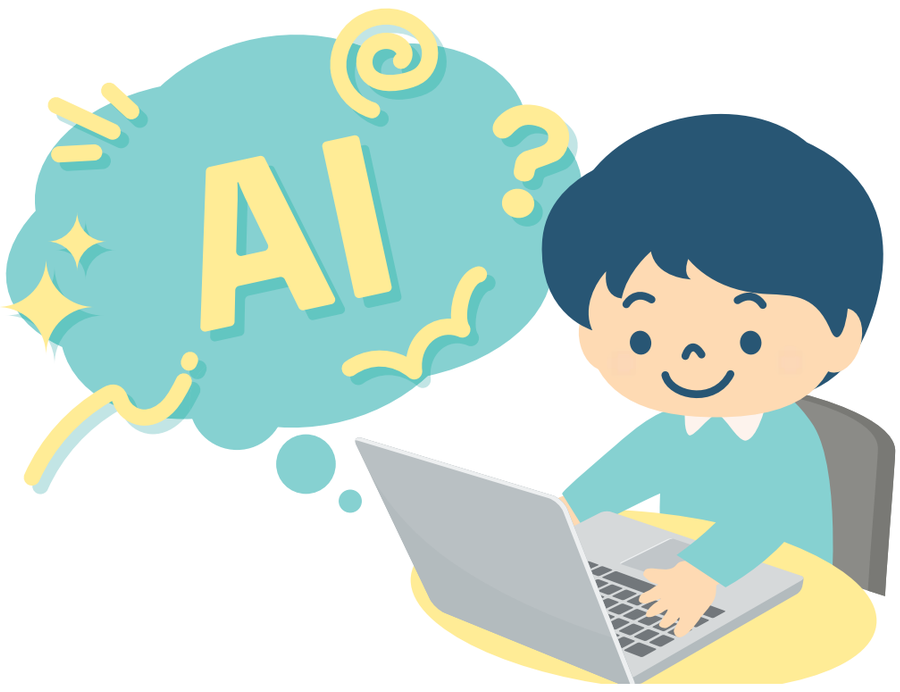
わたしたちの身近にも、AIは使われています。人間の負担を軽減したり、危険を避けたり、相談にのってくれたりいろいろな場面でわたしたちのくらしを支えてくれています。

可能性の広がるAIと、あなたならどのようなつき合い方をしたらよいと思いますか。下の条件に合わせて書きましょう。

記者コラム

AI活用し挑戦を

質問にすらすら答え、求めに応じて文章や絵などを瞬時に作り出す。そんな生成人工知能（AI）の機能がパソコンやスマートフォンで気軽に使える時代が到来した▼手を動かしてものを生み出す労力は確かに減る。作業の効率化は人手不足が叫ばれる地域社会の力になるかもしれない。ただ、人間の創造力が衰えないかといった漠然とした怖さは付きまとう▼さまざまな仕事での普及は今年も加速するだろう。効率化ばかりでなく、AIを活用して新たな挑戦ができないか。そんな姿勢で使いこなしたいものだ。



〈秋田魁新報2026年1月1日付より。記事は手直ししています〉

※【効率化】むだや手間を減らして、作業を速く正確に行えるようにすること。
※【創造力】今までにないものを生み出す力。
※【漠然】はっきりしていない様子。
※【普及】広く行きわたること。

条件

- AIとの具体的なつき合い方について書き、本文に合う題名をつけること。
- 百字以上、百二十字以内にまとめて書くこと。
- ◆の印から書き始め、改行をしないで続けて書くこと。

題名

◆

100字

120字

出題・監修：小松尚子（元秋田県教育専門監）